

評価の流れとポイントについて

○評価の流れ

- 1 内部評価 （3月～5月）
↓
- 2 外部評価 （6月～10月）
↓
- 3 内部評価と外部評価結果を踏まえた区の実施（総合判断）
（11月～2月）

【参考事例】

基本政策 I

個別施策 5 「未来を担う子どもたちの生きる力を伸ばす教育の充実」

※令和元年度の施策評価（第一次実行計画 平成 30 年度事業
実施分）を参考事例としています。

施策評価シート

所管部

教育委員会事務局

基本政策	I	個別施策	5	未来を担う子どもたちの生きる力を伸ばす教育の充実
目的(めざすまちの姿・状態)				
子どもたちが自ら学び、考え、行動できる「生きる力」を育むとともに、地域の人々とのつながりの中でのびのびと健やかに育ち、新宿に誇りと愛着を持てる人として成長し、自立した個人として他者とともに次代の社会を担うことができるまちをめざします。				

分析・評価

役割(妥当性)	① 各主体はそれぞれの役割に基づき取り組んでいるか。	おおむね取り組んでいる
効率性	② 効率的に各事業を実施しているか。	おおむね効率的
有効性	③ 区民ニーズや地域課題に的確に対応しているか。	おおむね対応している
成果	④ 目的(めざすまちの姿・状態)の実現に向けて成果を上げているか。	おおむね成果を上げている
総合評価	めざすまちの姿を実現するためには、就学前から中学校までのつながりのあるより質の高い教育を推進するとともに、新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育を推進していく必要があります。 そのため、子ども一人ひとりの「生きる力」を育む質の高い教育の実現に向け、普通教室に加えて特別教室等の教育用ICT機器を更新し、学習意欲を一層引き出す、より教育効果の高い授業を実施しました。また、小学校の外国人英語教育指導員(ALT)の配置の充実、中学生を対象とした英検チャレンジ(英検受験費用補助)の実施等に取り組んでいます。 東京2020オリンピック・パラリンピック(以下、「東京2020大会」といいます。)を契機とした教育の推進として、英語キャンプをはじめとした国際理解教育及び英語教育、様々な体験学習等による伝統文化理解教育及び障害者理解教育、スポーツギネス新宿等の小・中学生のスポーツへの関心と体力の向上に取り組みました。 また、新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現に向け、各校の地域協働学校運営協議会の取組を支援するとともに、「小中連携型地域協働学校」や「学校運営協議会と地域との連絡会」を1地区でモデル実施しました。 一人ひとりの子どもが豊かに学べる教育環境の整備としては、特別支援教育推進員を増員したほか、中学校特別支援教室の全校実施に向け3校で先行実施するとともに、特別支援教室のガイドラインの検証・見直しを行い、令和元年度からの全中学校での開設につなげました。 学校の教育力の強化では教員の勤務環境の改善・働き方改革として、部活動の休養日の設定や部活動指導員の考え方等を定めた「新宿区立学校における部活動ガイドライン」を策定しました。これにより、教育課題にチームで向き合う体制の整備が進み、子どもたちの教育活動が充実するとともに、教員の勤務環境の改善・働き方改革の推進につなげています。 学校環境の整備・充実では、放課後等に児童が自学自習や調べ学習ができるよう学校図書館の放課後等開放のモデル実施を15校で行い、令和元年度からの全小学校での本格実施に向けた整備を進めました。また、学校トイレの洋式化を進め、児童・生徒にとって安全・安心な教育環境を確保するとともに、災害発生時の地域住民の避難所としての機能を向上させることに寄与しています。 <u>以上のことから、めざすまちの姿の実現に向けておおむね成果を上げていると評価します。</u> 引き続き、子どもたちが生涯を切り拓いていく力を一層伸ばしていくため、学校・家庭・地域と連携・協働しながら、教育活動や教育環境の一層の充実に取り組んでいきます。	
	取組状況 ☐ 順調に進んでいる ☒ おおむね順調に進んでいる ☐ やや遅れている ☐ 遅れている	

今後の取組の方向性

課題	小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となる新学習指導要領の対応が求められています。また、東京2020大会の開催を1年後に控え、子どもたちの人生の糧となるようなレガシー(有益な遺産)を残していくための様々な教育活動の充実と、東京2020大会後の関連事業のあり方を検討する必要があります。さらに、発達障害等のある児童・生徒の増加に伴い、個々の状況に応じた適切な指導のための教育環境の整備が必要です。 学校環境の整備としては、近年の猛暑を受けた熱中症対策等、児童・生徒の教育活動を安全に実施できる教育環境の整備が急務です。また、教員の長時間勤務の実態を踏まえ、学校における勤務環境の改善と働き方改革に一層取り組む必要があります。
取組の方向性	新学習指導要領への円滑な移行と教育活動の充実に向けて、小・中学校での学習指導支援員への配置を継続するとともに、デジタル教材を活用した小学校の英語教育やプログラミング教育等の研究・準備を進めます。また、東京2020大会を契機とした中学生のボランティアマインドの育成や小学校での新たなスポーツの導入等に取り組めます。さらに、特別支援教育推進員を増員するとともに、小学校に続き、全区立中学校に特別支援教室「まなびの教室」を開設します。 児童・生徒の安全な教育環境の実現と災害時の避難所としての機能向上のため、小・中学校の屋内運動場の空調設備の整備に取り組めます。また、学校における勤務環境の改善と働き方改革に一層取り組み、部活動指導員の配置や学校の法律相談体制の活用、タイムレコーダーや留守番電話の運用等により長時間勤務の解消につなげ、教員が健康でやりがいをもちながら質の高い教育活動を継続することで、子どもたちが生涯を切り拓いていく力を一層伸ばしていきます。

成果指標(参考)

指標	指標名	指標の定義	単位	当初値	実績	目標水準
指標1	分かる授業の実践	児童・生徒アンケートで学校の授業が分かりやすいと回答した割合	%	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和9(2027)年度
				85.8	88.5	93.0
指標	指標名	指標の定義	単位	当初値	実績	目標水準
指標2	学校運営の充実	第三者評価報告書において総合所見がA(優れている)の評価を得た割合	%	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和9(2027)年度
				80.0	70.0	75.0
指標	指標名	指標の定義	単位	当初値	実績	目標水準
指標3	学校と地域が連携した教育の取組	学校関係者評価報告書の「地域連携」の項目についてA(十分達成)の評価を得た割合	%	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和9(2027)年度
				74.4	75.0	80.0

基本政策	I	暮らしやすさ 1 番の新宿
個別施策	5	未来を担う子どもたちの生きる力を伸ばす教育の充実
計画事業	24	学校の教育力強化への支援
計画事業	25	一人ひとりの子どもが豊かに学べる教育の推進
計画事業	26	学校図書館の充実
計画事業	27	時代の変化に応じた学校づくりの推進
計画事業	28	公私立幼稚園における幼児教育等の推進
計画事業	29	学校施設の改善
計画事業	30	I C Tを活用した教育の充実
計画事業	31	地域協働学校（コミュニティ・スクール）の充実
計画事業	32	東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした教育の推進
計画事業	33	国際理解教育及び英語教育の推進
計画事業	34	チームとしての学校の整備

目的（めざすまちの姿・状態）

子どもたちが自ら学び、考え、行動できる「生きる力」を育むとともに、地域の人々とのつながりの中でのびのびと健やかに育ち、新宿に誇りと愛着を持てる人として成長し、自立した個人として他者とともに次代の社会を担うことができるまちをめざします。

外部評価結果

（順調に進んでいる／おおむね順調に進んでいる／やや遅れている／遅れている）

おおむね順調に進んでいる

外部評価意見

【総合評価】

「新宿区教育ビジョン」における三つの柱である「子ども一人ひとりの『生きる力』をはぐくむ質の高い学校教育の実現」、「新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現」、「時代の変化に対応した、子どもがいきいき学ぶ教育環境の実現」という施策の方向性に基づき各事業を展開し、着実に実施している。これらの取組により、就学前から中学校までのつながりのある質の高い教育が推進されていることから、**本施策の取組状況は、「おおむね順調に進んでいる」と評価する。**

特に、特別支援教室については、「中学校まなびの教室ガイドライン」を改訂し、全区立中学校での開設に向けた取組は高く評価する。

※1 しかし、I C Tを活用したプログラミング教育や「小中連携型地域協働学校」の実施に向けた今後の展開については、課題の共有と効果検証に基づき、丁寧にしっかりと検討してい

く必要があると考える。

引き続き、未来を担う子どもたちが、地域や社会とのつながりの中でのびのびと健やかに成長していけるよう、学校・家庭・地域が連携、協働しながら、教育環境がより豊かなものになることを期待する。

【取組の方向性に対する意見】

各学校の取組や地域との連携については、引き続き、課題をしっかりと把握し、適切な支援を行うことで、教育活動や教育環境をより充実させるとともに、質の高い教育が推進されることを望む。

また、本施策を推進していくためには、「チームとしての学校」の取組が大切である。教員に加えて、専門性を持つ多様な人材の配置を進めるとともに、教員と専門性を持つ多様な人材が一つのチームとして、学校運営を支えていくことが求められる。そのため、「チームとしての学校」を構成する人材は多岐にわたることから、計画事業 34「チームとしての学校の整備」の取組に限らず、より広範な取組に対して当てはまるものであると考える。

※2 今後、「チームとしての学校」の取組を広げていく際には、これまで以上に多様な人材との連携が必要となる。それらの人材の果たしている役割と待遇との間に齟齬が生じないように十分に配慮しながら、取り組んでほしい。

【その他意見・感想】

今後も、各学校の特色、特性をいかした教育が推進されることを期待する。

内部評価

おおむね順調に進んでいる

基本政策	I	暮らしやすさ 1 番の新宿
個別施策	5	未来を担う子どもたちの生きる力を伸ばす教育の充実
計画事業	24	学校の教育力強化への支援
計画事業	25	一人ひとりの子どもが豊かに学べる教育の推進
計画事業	26	学校図書館の充実
計画事業	27	時代の変化に応じた学校づくりの推進
計画事業	28	公私立幼稚園における幼児教育等の推進
計画事業	29	学校施設の改善
計画事業	30	I C Tを活用した教育の充実
計画事業	31	地域協働学校（コミュニティ・スクール）の充実
計画事業	32	東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした教育の推進
計画事業	33	国際理解教育及び英語教育の推進
計画事業	34	チームとしての学校の整備

教育委員会事務局

目的（めざすまちの姿・状態）
子どもたちが自ら学び、考え、行動できる「生きる力」を育むとともに、地域の人々とのつながりの中でのびのびと健やかに育ち、新宿に誇りと愛着を持てる人として成長し、自立した個人として他者とともに次代の社会を担うことができるまちをめざします。

【評価】

内部評価	おおむね順調に進んでいる
外部評価	おおむね順調に進んでいる

外部評価意見	内部評価と外部評価を踏まえた区の対応
＜総合評価＞ 「新宿区教育ビジョン」における三つの柱である「子ども一人ひとりの『生きる力』をはぐくむ質の高い学校教育の実現」、「新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現」、「時代の変化に対応した、子どもがいきいき学ぶ教育環境の実現」という施策の方向性に基づき各事業を展開し、着実に実施している。これらの取組により、就学前から中学校までのつながりのある質の高い教育が推進されていることから、本施策の取組状況は、「おおむね順調に進んでいる」と評価する。 特に、特別支援教室については、「中学校まなび	教育委員会では、平成 30 年 2 月に 10 年後の子どもたちの育ち・学びを見据えた「新宿区教育ビジョン」を策定し、新宿区が目指す教育の実現に向けて 3 つの柱を掲げ、各事業に取り組んでいます。 特別支援教室については、小学校に続いて令和元年度から全ての中学校でも特別支援教室「まなびの教室」を設置しました。引き続き周知を図りながら、特別な支援を要する児童・生徒への適切な指導につなげていきます。 <u>※1 ご指摘のプログラミング教育の推進については、モデル実施を踏まえ、各校での実践事例</u>

の教室ガイドライン」を改訂し、全区立中学校での開設に向けた取組は高く評価する。 <u>※1 しかし、ICTを活用したプログラミング教育や「小中連携型地域協働学校」の実施に向けた今後の展開については、課題の共有と効果検証に基づき、丁寧にしっかりと検討していく必要があると考える。</u> 引き続き、未来を担う子どもたちが、地域や社会とのつながりの中でのびのびと健やかに成長していけるよう、学校・家庭・地域が連携、協働しながら、教育環境がより豊かなものになることを期待する。	<u>や教材等を共有するとともに、ICT支援員による授業のサポートの充実を図るなど、プログラミング教育の本格実施に向け支援体制を強化していきます。</u> <u>また、小中連携型地域協働学校では、これまでの実施内容を踏まえ、効果検証を徹底し、各地区の地域性等を十分考慮しながら連携を深めていきます。</u>
《取組の方向性に対する意見》 各学校の取組や地域との連携については、引き続き、課題をしっかりと把握し、適切な支援を行うことで、教育活動や教育環境をより充実させるとともに、質の高い教育が推進されることを望む。 また、本施策を推進していくためには、「チームとしての学校」の取組が大切である。教員に加えて、専門性を持つ多様な人材の配置を進めるとともに、教員と専門性を持つ多様な人材が一つのチームとして、学校運営を支えていくことが求められる。そのため、「チームとしての学校」を構成する人材は多岐にわたることから、計画事業34「チームとしての学校の整備」の取組に限らず、より広範な取組に対して当てはまるものであると考える。 <u>※2 今後、「チームとしての学校」の取組を広げていく際には、これまで以上に多様な人材との連携が必要となる。それらの人材の果たしている役割と待遇との間に齟齬が生じないように十分に配慮しながら、取り組んでほしい。</u>	子どもの生きる力を伸ばす学校教育を充実させるためには、学校の教育力の向上を図ることが必要です。学校評価等により各学校の取組や地域との連携についての課題を把握し、学校が自主性・自律性を発揮しつつ、教員の指導力の向上や地域との連携をいかした教育力の向上を促すための支援を引き続き行っていきます。 また、子どもを取り巻く状況の変化や、複雑化・多様化した課題に向き合うため、教職員に加えてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門人材や地域協働学校の学校支援活動を支える多様な人材が各々の専門性に応じて学校運営に参画し、サポートしていくことにより、学校の組織力をより効果的に高め、教育活動の充実を図る必要があります。<u>※2 今後も、計画事業34「チームとしての学校の整備」で示した「部活動を支える環境の整備」「専門人材を活用した教育相談体制の充実」「地域協働学校の充実」のみならず、子どもたちの資質・能力の育成等のため、学校運営に携わるスタッフの資質向上や待遇面にも配慮しながら多様な外部人材の活用を図り、教育活動の充実につなげていきます。</u>
《その他意見・感想》 今後も、各学校の特色、特性をいかした教育が推進されることを期待する。	今後も区が目指す教育の実現に向けて、幼児・児童・生徒の実態や地域の実情、各学校・園の特

	色をいかした創意工夫ある取組を引き続き支援していきます。
--	------------------------------

【区の総合判断】

今後も新宿区教育ビジョンの３つの柱「子ども一人ひとりの『生きる力』をはぐくむ質の高い学校教育の実現」、「新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現」、「時代の変化に対応した、子どもがいきいき学ぶ教育環境の実現」の下、教育施策を着実に推進し、子どもたちが生涯を切り拓いていく力を一層伸ばしていきます。	
《令和元年度取組方針に対する意見》 協働事業助成については、自由提案と課題への提案の二つの区分で事業の募集を行っているが、事業実施へのハードルがやや高いように感じる。地域課題の解決のために事業実施を推進するのであれば、より多くの主体が応募しやすい助成制度について検討してはどうか。例えば、地域課題を区民から募集し、その課題に対する基本的な事業手法を区から提案する形の事業とすれば、地域課題により的確に対応できるのではないか。	協働事業助成制度では、団体が培ってきたノウハウと専門性をいかし、区と協働することでより大きな効果が見込まれる事業を公募、採択しています。その中で、募集要項に記載する行政からの課題提起は、全庁から課題を募集し、提出されたものを採用してきました。 複雑・多様化している地域課題を的確に把握するために、直接地域の声を汲むことは意義のあることと考えます。
《その他意見・感想》 複雑・多様化する地域課題を解決していくために、専門性を持ったＮＰＯや地域活動団体等と地域の区民や町会・自治会とが連携して事業に取り組めるように、更なる工夫を望む。	地域課題の抽出手法や、実施事業を契機とした連携の広がりを促すサポート方法について、今後協働支援会議において具体的に取り組める方法を検討していきます。